



第107号 ～礼儀と節度を考える～

# 平成武師道

## (人間活動学)



### 『自由』

「大空に翼を広げて飛んで行きたい」という自由を求める歌があった。

空には何も障害物がないからこそ、空を飛び回ることが自由につながるのだと言いたかったに違いない。

私達の社会には、法律、規則など多くの決まりごとや制約がある。

自らが決めてもない社会のルール。

誰もが一度は疑問に思ったことがあるだろう。

しかし、そのルールを守らなければ社会は成り立たない。

「自由だ、自由だ！」と言っても、何でもありの自由は単なるワガママに過ぎないのではないだろうか。

何をしてもいい自由のなかでの殺人、強盗などは決して許されるものではない。

また言論の自由だと言いながら、人を傷つける言葉の暴力も許されない。

無法では駄目なのだ。

これらから、本当の自由とは決められたルールの中で、人に迷惑をかけずに思考・行動を取り、作り上げていかなければならない事である。

時代が進み、物が豊かになり、これからはもっと科学や医学が進歩して生活も向上し、寿命も延びていくだろう。かなり便利な時代だ。

それこそ昔の人から見たら、とても自由に生きて行ける時代になった。

それでは昔と比べ、我々は自由になったのか？

いや、そうは思えない。

昔の方がもっといろいろと伸び伸びと自由にできたように感じる。

今は多くの情報が攪乱し、いつも誰かに視られている気がして、息苦しく感じてしまう。

ある意味、監視時代だ。

将来、多くの建造物が空中に浮き、空を乗り物が飛び回り、大空が埋め尽くされる時代が来るだろう。

その時は、誰もが「翼が欲しい」とは思わなくなるだろう。

人間は自由を求め、自由を失っていく生き物なのだろう。

それでも私は今でも思っている。

「大空に翼を広げて飛んで行きたい」